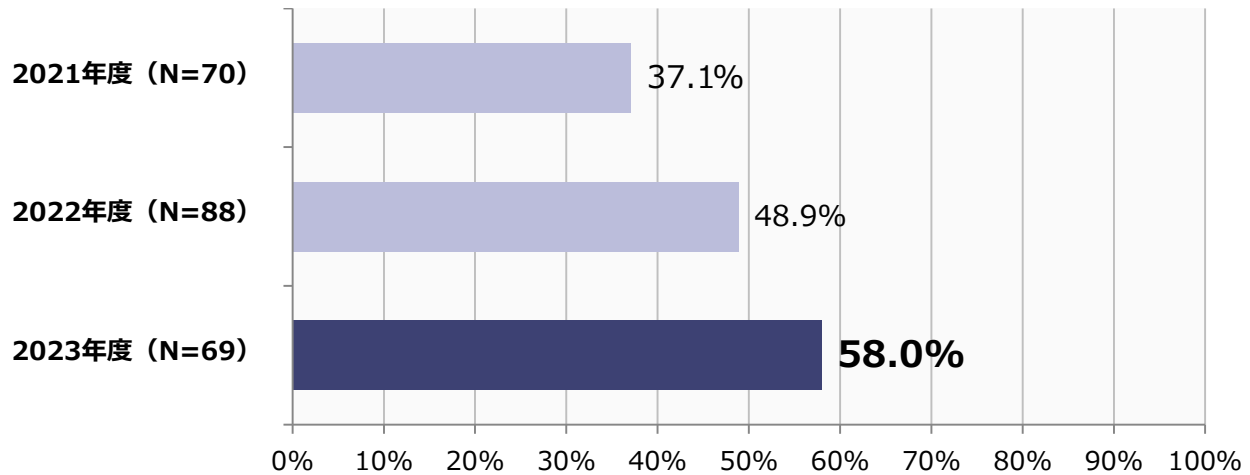


Door-to-balloon time (DTBT) 60分以内の達成率

Door-to-balloon time (DTBT) とは、急性心筋梗塞の患者さんが病院に到着してから再灌流療法（閉塞した冠動脈の血流を再開させる治療）が開始されるまでの時間のことをいいます。循環器内科医の努力だけで、DTBTを短くすることは不可能です。救急患者さんを受け入れる救急外来、緊急心臓カテーテル検査を行う放射線部などの部署が緊密に連携をとる協力体制がないと、DTBTの短縮は到底達成できません。



当院値の定義・算出方法

分子：基準時間（60分）内の実施患者数合計
分母：急性心筋梗塞（急性冠症候群）の患者数（N）
 $\times 100 \text{ (％)}$

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

解説(コメント)

「Door to Balloon Time 基準時間（90分）内実施率」の項で述べたように、ST上昇型急性心筋梗塞（STEMI）では、患者の病院到着から治療により冠動脈の血流が再開するまでの時間、すなわち Door-to-balloon time (DTBT) を90分以内にするのが急性期治療のスタンダードであり最優先事項です。さらに、DTBT90分以内実施率が高いことは、その病院の救急体制の総合力が優れていることを示す指標でもあります。

当院では、「DTBT 90分以内」のさらに上を行く、「Door to Balloon Time (DTBT) 60分以内実施率」をQ I として取り上げています。

改善策について

DTBT 60分以内実施率は58.0%と2022年度（48.9%）と比較して上昇が見られました。

患者が病院に到着してから心臓カテーテル検査室（カテ室）に搬入されるまでは概ね20～30分であり、各職種の協力により迅速に対応できていました。初期診療にあたる救急医やメディカルスタッフとのコミュニケーションがより緊密にできるような環境作りに努力し、またカテ室では、循環器内科のシニアスタッフが、冠動脈の血流回復までの時間短縮を意識して的確なリーダーシップを執ることを徹底しました。今後はDTBT 60分以内実施率60%以上を目指します。

文責：循環器内科部長
権藤 公樹